



# 河川工事の進め方

多自然川づくりに関する指導・助言で事業計画を立案し工事を行います。

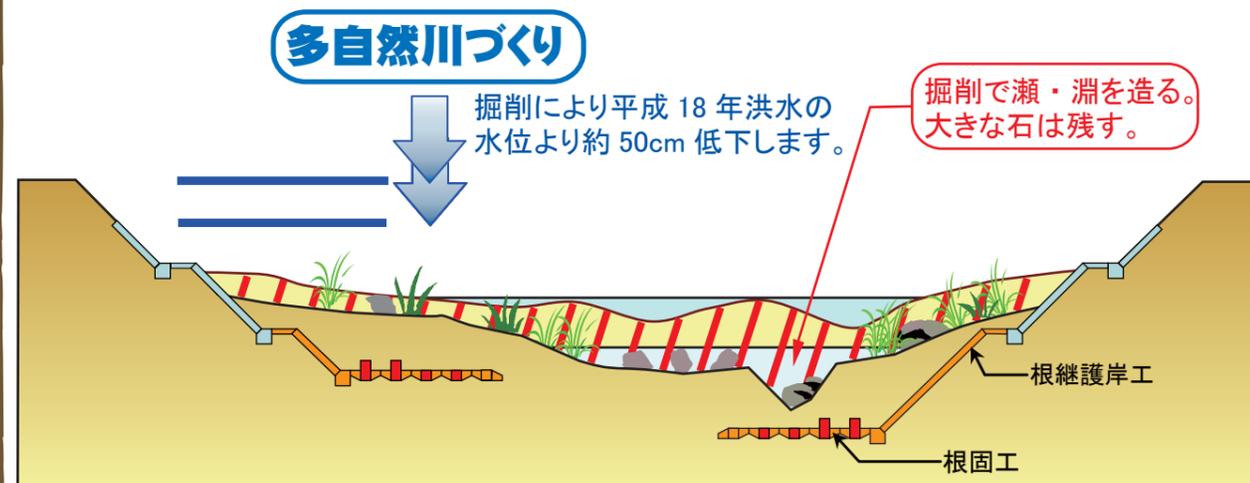
## 多自然川づくりアドバイザーの指導・助言

- ◆断面形状（勾配）を大きく変えない掘削とする。
- ◆護岸基礎および根固工の設置高は、洗掘傾向や掘削後の河床横断勾配を見通して決定する。
- ◆根固工が、水面よりも低くなるように整備することにより、瀬・早瀬・淵を持つ交互砂州の繰り返す天竜川らしい自然な河川景観を創造する。

## 地域からの要望・指導

- ◆河床が単調になり、深みや魚の待避場所がない。
- ◆大きな石を配置するなどして、魚等の良好な生息環境を創出してほしい。

## 瀬・淵を新たに造るように工事を行います。



根継護岸工 根固工：洪水時に堤防や河床を守るための、玉石コンクリートによる補強です。掘削した土砂は、公共用地の造成等に有効活用します。

## 「いい川づくり」を目指して

- ◆アユやザザムシなどの生息状況を見守り、工事方法の見直しを行っています。
- ◆学識者や地元の皆さんの助言・指導により、随時の見直しを行っています。
- ◆「伊那施工技術研究会<sup>注</sup>」と国土交通省で工事方法追加等を検討し、生態に配慮して行っています。

注)：伊那出張所の請負会社の技術者による研究会

# ザザムシ・アユへの影響

天竜川名物のザザムシとアユの、工事中や工事後の影響や回復状況の中間報告です。

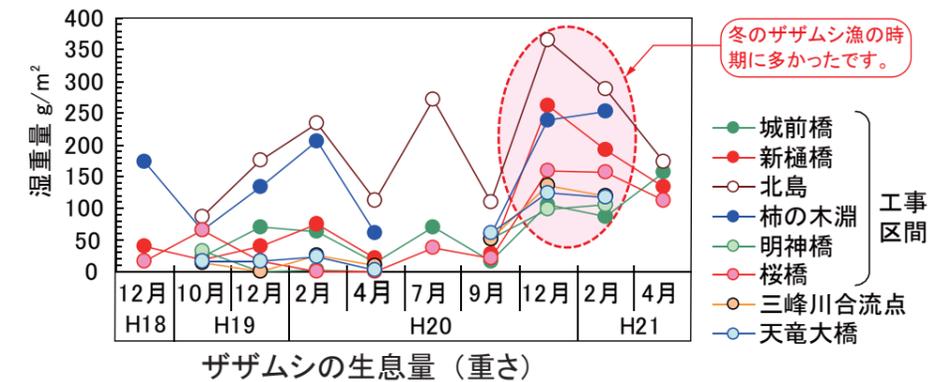
## ザザムシの調査結果

### 工事中のザザムシの成長の様子

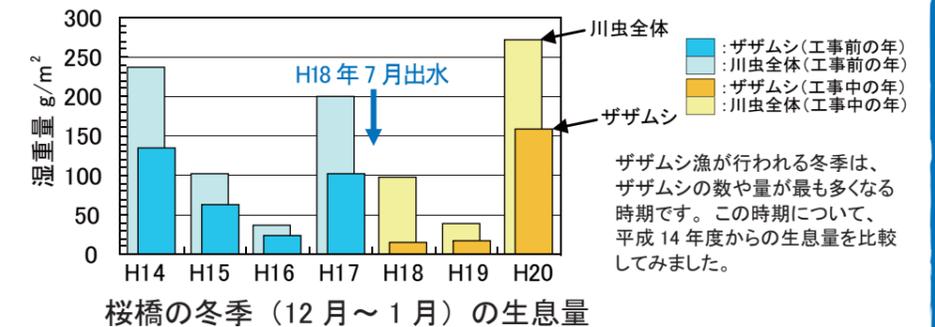
- ◆平成20年度の冬のザザムシはここ数年で最も多く確認されました。
- ◆特に北島・柿の木淵（箕輪町）、新樋橋（辰野町）で多く確認されました。
- ◆ザザムシ以外の川虫もたくさん見られました。



ザザムシ (ヒゲナガカワトビケラ)



川虫全体



## ザザムシが多かったのはなぜ?

- ◆平成20年度は大きな洪水がなかったことが考えられます。
- ◆工事で濁りが少なくなるよう工夫した効果が考えられます。



仮締切の工事中に発生した濁りがそのまま下流に流れないよう、濁りの元である細かい砂を沈ませてから下流に流しました。

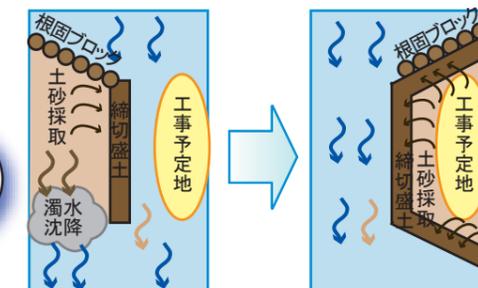
## コラム 工事の工夫

### 工事中の濁りを長引かせない工夫

- ◆仮締切の工事を一斉に行いました。

### 濁りを少なくする工夫

- ◆仮締切の工事を見直して、濁りが少なくなる方法にしました。
- ◆工事中の濁りが流れ出ないようにしました。



土砂採取を行う場所の上流に根固ブロックを置き、土砂が流れ出さないようにし、近から土砂を集めることにし、そのための手順を工夫しました。

[伊那施工技術研究会]